

# 全国育樹祭

全国育樹祭は、継続して森を守り育てることの大切さを普及啓発するため、1977(昭和52)年から、全国植樹祭を開催したことから、全国植樹祭を開催したことのある都道府県において、国土緑化推進機構と開催県の共催で毎年秋季に行われています。

全国植樹祭において、天皇皇后両陛下がお手植えされた樹木を皇族殿下がお手入れされるほか、皇族殿下のおことば、各種表彰、参加者の育樹活動などの行事が行われています。

第40回全国育樹祭では、式典行事の他に府内各所でお手入れ行事や併催行事などが行われました。

## お手入れ行事

10月8日(土)

宇治市・山城総合運動公園

平成3年の全国植樹祭で、天皇皇后両陛下がお手植えをされた北山杉とシダレザクラを、皇太子殿下がお手入れされました。



## 貴重な財産を次世代に

南丹市の森林面積は約5万4千ヘクタールと総面積の88%を占めています。その約4割は人工林で、特に日吉、美山地域においては林業が基幹産業として位置付けられ、暮らしの営みの中で森林が守られてきました。しかし、近年は林業生産が減少し、林業労働者の減少と高齢化などにより労働力が低下し、人工林の適切な管理が困難な状況となっています。

生態系の保存や水源のかん養、二酸化炭素の吸収といった森林の持つさまざまな機能への関心も高まる中、森林の計画的な管理保全対策や、森林を守り育てるという意識を市民のみならず来訪者や都市住民へと広げていく必要があります。

一方で、南丹市を含む由良川・桂川上中流域が、「森林生態系や河川生態系などの多様な生態系が文化的景観と相まって雄大で美しい」と評価され、平成28年3月、「京都丹波高原国定公園」に指定されました。

豊かな自然が今日まで残されているのは、先人たちが自然と共生

し、森林を守るための努力を続けてこられたおかげであり、こうした森林資源をこれからも有効に活用していくためには、森林を守り育てることはもちろん、森林を私たちのかけがえのない財産として、次世代へ着実に継承していくことが大切です。

全国育樹祭の開催を契機として、誰もが森林に親しみ、守り育てる気運を高め、緑豊かな美しいふるさとを未来へつなぐ取り組みを進めていかなければなりません。



▲天上の木：芦生の森のトチ(左)、園部町天狗岩のヒノキ(中)、八木町のケヤキ(右)

